

各 位

会 社 名 株式会社小僧寿し
 代表者名 代表取締役社長 森下 將典
 (JASDAQ コード：9973)
 問合せ先 管理本部長 笹田 耕之
 (電話番号 03-5719-6226)

連結業績予想の修正に関するお知らせ

この度、平成 28 年 2 月 17 日付「平成 27 年 12 月期決算短信〔日本基準〕(連結)」にて公表致しました平成 28 年 12 月期(平成 28 年 1 月 1 日～平成 28 年 12 月 31 日)の連結業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせ致します。

記

1. 平成 28 年 12 月期連結業績予想の修正について

通期(累計)(平成 28 年 1 月 1 日～平成 28 年 12 月 31 日)の業績予想 (単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益 (円銭)
前回発表予想 (A)	5,354	204	189	182	6.12
今回修正予想 (B)	5,540	31	44	40	1.34
増 減 額 (B-A)	186	△173	△139	△142	—
増 減 率 (%)	3.4	△84.8	△76.7	△78.0	—
(ご参考) 前期実績 (平成 27 年 12 月期通 期)	6,054	82	44	△72	△2.45

2. 修正理由について

連結売上高における業績予想修正の内訳は以下の通りです。

直営部門の持ち帰り寿し事業では引き続き業績が低調に推移したこと、また昨年に新規事業として参入したラーメン事業から撤退したことが減収要因となりました。一方、当期に子会社化した 4 社の売上が増収要因となり、当期連結売上高は業績予想の 53 億 54 百万円から 55 億 40 百万円となる見通しです。

売上高における連結業績予想への乖離要因について

(1)直営事業	持ち帰り寿し事業	△2億円 (既存店売上が前期比93%と低迷)
	ラーメン事業	△1億円 (ラーメン事業撤退による修正)
(2)連結子会社	株式会社阪神茶月 株式会社スパイシークリエイト 株式会社けあらぶ 介護サポートサービス株式会社	+4.8億円 (連結子会社の増加(4社)による増収)

損益につきましては、直営事業の持ち帰り事業において既存店売上の減少、原材料費の高騰、及び人件費並びに人材採用費の増加により減収を余儀なくされたこと、並びに、当期収益化を想定しておりましたラーメン事業について、不採算による撤退を実施したこと、などが当初の業績予想と比較しての減益要因であります。また当期に連結子会社とした株式会社阪神茶月、株式会社スパイシークリエイト、株式会社けあらぶ、介護サポートサービス株式会社におけるのれん償却費増加も減益要因となりました。一方、FC事業の購買収益の改善、及び管理部門の費用削減等は増益要因となりました。上記に記載する要因が、連結業績予想における営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益の減益要因となったため、営業利益は当期業績予想の2億4百万円から31百万円、経常利益は1億89百万円から44百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は、1億82百万円から40百万円となる見通しです。

営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益への乖離要因について

(1)直営事業	持ち帰り寿し事業	△1.7億円 (既存店の売上低迷、原価上昇、人件費増加等による減益)
	ラーメン事業	△0.4億円 (ラーメン事業撤退による修正)
(2)連結子会社	株式会社阪神茶月 株式会社スパイシークリエイト 株式会社けあらぶ 介護サポートサービス株式会社	△0.3億円 (連結子会社化に伴うのれん償却並びに事業再建費用等)
(3)FC事業	FCに係るロイヤリティ並びに購買部門	+0.5億円 (購買・物流部門の業務改善)
(4)本社部門	管理部門	+0.4億円 (業務フロー改善による人件費削減)

※ 上記の予想は、現時点における経営環境において、入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想値と異なる結果となる可能性があります。

以 上